

空土ファーム生きもの調査 7月報告書

1. 調査の概要

1) 調査の目的

山梨県北杜市須玉町増富地域にある空土ファームの中で、2018年度に再耕作された耕作放棄地の生物多様性がどのように変化するのか、周辺環境も含め調査を実施する。また、その調査結果をもとに、一般向け自然観察会の実施や、ハンドブック作成も視野に入れる。

2) 調査方法・結果

①調査地：山梨県北杜市須玉町増富地区「空土ファーム」とその周辺緑地（図1、図2）

なお、今回の調査では、4カ所の調査地点を設定し、地点ごとに確認した動植物を整理した。また、2018年に設置したビオトープ池も調査地点として設定した。

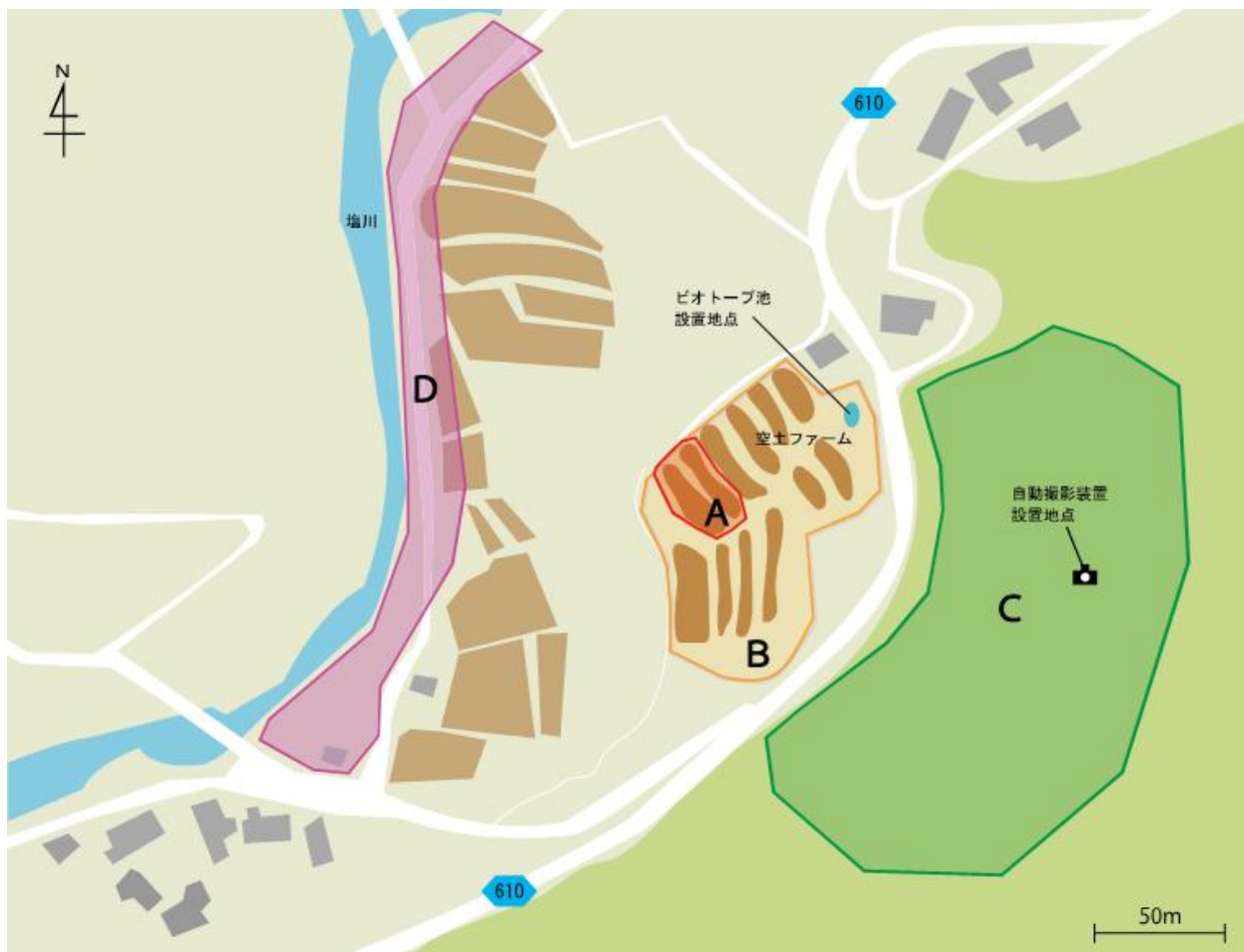


図1 調査エリアマップ

②調査日程：2020年8月6日 10:00~16:00

※7月中の天候不順のため、調査は8月の実施となった。



A 地点



B 地点



C 地点



D 地点



ビオトープ池

図2 各調査地全景

③調査対象 : 鳥類、チョウ・トンボ・バッタ類等の大型昆虫類を中心に、姿・声・行動等を確認すると共に写真撮影を行った。両生類、は虫類、ほ乳類等は適宜調査した。植物に関しては、開花・結実しているものを記録した。また、C 地点に自動撮影装置を設置し、夜間に活動する哺乳類などの記録を行った（図 3、4）。



図 3. 設置された自動撮影装置の様子



ニホンザル



ハクビシン

図 4. 記録された生きもの

2. 空土ファームで見られた生きものたち

1) 空土ファーム 生きものピックアップ

オオチャバネセセリ (A、B、D 地点) :

今回の調査では、山梨県のレッドデータブックで準絶滅危惧 (NT) に指定されているオオチャバネセセリが、3つの調査地で確認されました。このチョウは山地などにあるササの仲間に産卵をしますが、日中は花の蜜を求めて飛来します。空土ファームの休耕田では草刈りがほとんど行われず、花をつける野草が多くあるため、オオチャバネセセリが確認されたと考えられます。



オオチャバネセセリ (A,B,D 地点)

2) 各調査地で見られた生きものたち



モートンイトトンボ (B 地点)

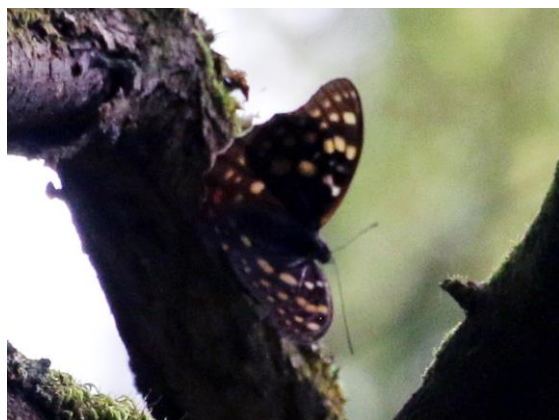
無農薬の田んぼを好むトンボの仲間です。この個体は未成熟なメス個体です。

※環境省 RL：準絶滅危惧(NT)



ホソクビツユムシ (D 地点)

木の上にすむバッタの仲間です。撮影時はハリエンジュの木に複数個体とまって鳴いていました。



オオムラサキ (C 地点)

日本の国蝶で、豊かな里山環境の指標として保全されることが多いチョウです。

※環境省 RL：準絶滅危惧(NT)



ホソバセセリ (D 地点)

森に接した草地で見られるチョウの仲間です。里山の荒廃により、都市近郊では減少しています。



キスジトラカミキリ (D 地点)

花や倒木に集まるカミキリムシの仲間です。今回の調査で初めて記録されました。



シデシャジン (B 地点)

山地に生える野草で、花にはセイヨウミツバチが飛来していました。

3) 空土★生きものコラム ～こんなところに外来種？～

様々なテレビなどで紹介されることにより、「外来種」という言葉はかなり一般化したかと思えます。でも外来種というのは、東京などの都市部に多いもので、自然豊かな空土ファーム周辺には外来種などほとんどいないと思われているかもしれませんが。しかし今回調査をしてみると、意外と多くの外来種が確認されています。

今回の調査では、インゲンテントウという、中米原産のテントウムシの仲間が確認されました。このテントウムシは 1997 年に山梨県と長野県の県境で見つかり、その後も両県の標高500～1500m以上の場所で確認されています。アメリカ国内にもマメ科の牧草に混じって移入していますが、日本にどのようにして入ってきたかは分かっていないようです。インゲンテントウは名前の通り、インゲンやダイズなどを食害するようですが、ただ、調査地の須玉町小尾地区でよく育てられている「花豆」を食害するかは分かりませんので、機会があれば地域の方に聞いてみたいと思います。

このように、空土ファーム周辺でも身近に外来種は見られます。なかには、調査地周辺で勢力を拡大し、他の植物の生息地を奪うアレチウリなど、他の植物に影響を及ぼす種もいますが、一方で、江戸時代に移入されたシロツメクサなど、地域の昆虫にとって貴重な蜜源となる植物もいて、一概に善悪で語れないのが外来種問題です。よりグローバル化する社会の中で、空土ファーム周辺の自然環境と外来種との関わりは、今後も続いていくでしょう。



インゲンテントウ (B 地点)

3. 調査結果

表.1 調査地内で見られた生物種(草本)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RL	環境省RL
A	オツタチカタバミ	○			
A	ケキツネノボタン	○			
A	シデシャジン	○			
A	シロツメクサ	○			
A	スズメノテッポウ	○			
A	セイヨウタンポポ	○			
A	ツユクサ	○			
A	トキワハゼ	○			
A	ヒメオトギリ	○			
A	ヘラオモダカ	○		準絶滅危惧 (NT)	
A	ミゾホオズキ	○			
A	ムラサキツメクサ	○			
B	アブラガヤ	fr			
B	ウシハコベ	○			
B	エゾノギシギシ	fr			
B	オモダカ	○			
B	カラスビシャク	○			
B	キツネノボタン	○			
B	キツリフネ	○			
B	ゲンノショウコ	○			
B	シロツメクサ	○			
B	セリ	○			
B	ハキダメギク	○			
B	ヒメジョオン	○			
B	ヘラオオバコ	○			
B	ヘラオモダカ	○		準絶滅危惧 (NT)	
B	ムラサキツメクサ	○			
C	クサコアカソ	○			
C	ハエドクソウ	○			
C	ホオノキ	fr			
C	ヨツバムグラ	○			
D	アイノコセンダングサ	○			
D	アレチウリ	○			
D	イタドリ	○			
D	ウシハコベ	○			
D	オオダイコンソウ	○			
D	オニグルミ	fr			
D	カラスビシャク	○			
D	クサコアカソ	○			
D	クズ	○			
D	シロツメクサ	○			
D	セイヨウタンポポ	○			
D	ツユクサ	○			
D	トキワハゼ	○			
D	ハキダメギク	○			
D	ヒメジョオン	○			
D	ボタンヅル	○			
D	ムラサキツメクサ	○			
D	ヤブカンゾウ	○			
D	ヤマキケマン	○			
D	ヨウシュヤマゴボウ	○			
ビオトープ	イ	○			
ビオトープ	シロツメクサ	○			
ビオトープ	セリ	○			
ビオトープ	ハキダメギク	○			
ビオトープ	ヘラオモダカ	○		準絶滅危惧 (NT)	

○:開花 Fr:結実 △:つぼみ ▽:花期終了

表.2 調査地内で見られた生物種(木本)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
C	アブラチャン	fr			
C	ホオノキ	fr	未熟		
D	オオバアサガラ	○			
D	オニグルミ	○			

○:開花 Fr:結実 △:つぼみ ▽:花期終了

表.3(1/3) 調査地内で見られた生物種(昆虫)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
A	オオチャバネセセリ			準絶滅危惧(NT)	
A	オンブバッタ				
A	ギンヤンマ				
A	コオイムシ			準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧(NT)
A	コノシメトンボ				
A	シオカラトンボ				
A	セイヨウミツバチ				
A	ハラビロトンボ				
A	ヒメアカネ				
A	ミヤマカネ				
A	ヤマトシジミ				
B	オオシオカラトンボ				
B	オオチャバネセセリ			準絶滅危惧(NT)	
B	キタキチョウ				
B	キタテハ				
B	コオイムシ			準絶滅危惧(NT)	準絶滅危惧(NT)
B	コムスジ				
B	サクラコガネ				
B	シオカラトンボ				
B	ジャノメチョウ				
B	スジボソヤマキチョウ				
B	セイヨウミツバチ				
B	ツマグロバッタ				
B	ナツアカネ				
B	ナナホシテントウ				
B	ナミテントウ				
B	ノシメトンボ				
B	ハラビロトンボ				
B	ヒメアカネ				
B	ヒメアメンボ				
B	ヒメウラナミジャノメ				
B	ヒメカメノコテントウ				
B	ヒメギス				
B	ベニシジミ				
B	ホソミイトトンボ				
B	ホソミオツネントンボ				
B	マメコガネ				
B	ミズカマキリ				
B	ミヤマカネ				
B	ミンミンゼミ				
B	モートンイトトンボ			絶滅危惧ⅠB類(EN)	準絶滅危惧(NT)
B	モンキチョウ				
B	モンシロチョウ				
C	アカスジキンカメムシ				
C	オオヒカゲ			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	
C	オオムラサキ			要注目種(N)	準絶滅危惧(NT)
C	キマワリ				
C	クロナガキマワリ				
C	シラホシナガタマムシ		類似種あり		
C	ナツアカネ				

表.3(2/3) 調査地内で見られた生物種(昆虫)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
C	ニイニイゼミ				
C	マイマイガ				
C	ミヤマカラスアゲハ				
C	ミンミンゼミ				
C	ムネアカオオアリ				
C	ムモンホソアシナガバチ				
D	アオハナムグリ				
D	アキアカネ				
D	アケビコノハ		幼虫		
D	イカリモンガ				
D	イチモンジセセリ				
D	イチモンジチョウsp				
D	インゲンテントウ				
D	エゾハサミムシ				
D	エントツドロバチ				
D	オオチャバネセセリ			準絶滅危惧(NT)	
D	オニヤンマ				
D	オンブバッタ				
D	キアシナガバチ		営巣		
D	キスジトラカミキリ				
D	キタキチョウ				
D	コアシナガバチ		営巣		
D	コムスジ				
D	シオカラトンボ				
D	シオヤアブ				
D	シマアメンボ				
D	ジャノメチョウ				
D	スジグロチャバネセセリ				
D	スズバチ				
D	セイヨウミツバチ				
D	セマダラコガネ				
D	ツバメシジミ				
D	ツリアブ科の一種				
D	トラマルハナバチ				
D	ナキイナゴ				
D	ナツアカネ				
D	ナナホシテントウ				
D	ナミアゲハ				
D	ニイニイゼミ				
D	ネキトンボ				
D	ノシメトンボ				
D	ハネナガフキバッタ				
D	ハラビロトンボ				
D	ヒナバッタ				
D	ヒメアカタテハ				
D	ヒメカメノコテントウ				
D	ヒメギス				
D	フクラスズメ				
D	ブチヒゲカメムシ				
D	ホオズキカメムシ				
D	ホソクビツユムシ				
D	ホソバセセリ				
D	ホソヘリカメムシ				
D	ホソミイトトンボ				
D	ホソミオツネトンボ				
D	マイマイガ				
D	マドガ				

表.3(3/3) 調査地内で見られた生物種(昆虫)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
D	マメコガネ				
D	ミヤマアカネ				
D	ミヤマカラスアゲハ		集団吸水		
D	ミンミンゼミ				
D	モンキチョウ				
D	モンシロチョウ				
D	ヤマトシジミ				
ビオトープ	オオシオカラトンボ				
ビオトープ	オオモンクロクモバチ				
ビオトープ	オツネトンボ				
ビオトープ	ヒメアメンボ				
ビオトープ	ヒメゲンゴロウ				
ビオトープ	マツモムシ				
ビオトープ	ミズムシ				
ビオトープ	モンキマメゲンゴロウ属の一種				

表.4 調査地内で見られた生物種(クモ類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
B	ドヨウオニグモ				
B	ナガコガネグモ				
D	ナガコガネグモ				

表.5 調査地内で見られた生物種(両生類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
A	ニホンアマガエル				
B	シュレーゲルアオガエル				
C	ニホンアカガエル				
C	ニホンアマガエル				
D	ニホンアマガエル				
ビオトープ	アカガエル類				

表.6 調査地内で見られた生物種(爬虫類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
B	ヒガシニホトカゲ				
B	ヒバカリ		死骸		

表.7 調査地内で見られた生物種(鳥類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
C	アオバト	s			
C	ウグイス	s			
C	コゲラ	c			
C	シジュウカラ	c			
D	アオバト	v.f			
D	ウグイス	s			
D	ガビチョウ	c			
D	キセキレイ	v			
D	シジュウカラ	v.c			
D	セグロセキレイ	c			
D	ツバメ	v.f			
D	ノスリ	v.f			
D	ヒヨドリ	c			
D	ホオジロ	c			
D	モズ	s			

v:目視 c:地鳴き s:さえずり fl:飛翔 fd:採餌

表.8 調査地内で見られた生物種(哺乳類)

調査地域	種名	状態	備考	山梨県RDB	環境省RL
C	ニホンザル		自動撮影装置		
C	ニホンジカ		自動撮影装置		
C	ニホンリス		自動撮影装置	要注目種(N)	
C	ハクビシン		自動撮影装置		
C	ホンドギツネ		自動撮影装置		